

第7回能勢町総合計画審議会及び地方創生推進委員会 議事録

【開催日時】 令和3年10月28日（木） 午前10時00分～12時15分

【開催場所】 淨るりシアター小ホール

【出席委員】 委員17名中11名出席の下、開催した。※順不同

神吉紀世子、神出計、榎原友樹、三浦勝志、尾下忠、野津俊明、奥畑司、山本光晴、東亮一、久慈真里、東良勝

【欠席】 猪井博登、中西信介、三浦嚶子、田中利明、大城桜子、八木修

【事務局】 藤原総務部長、百々総務課長、矢立政策推進係長、株式会社建設技術研究所（業務支援）

【協議事項】

- （1）前回意見の振り返り、調査研究の報告
- （2）グラビアページ素案についてー
- （3）分野別計画ー各施策についてー
- （4）その他

・開会

・会長あいさつ

会 長）資料をご覧の通り、計画が形になってきている。これから審議会的にも忙しくなり、いろいろとコロナ禍で大変だがよろしく願います。

・議事

会 長）前回、グラビアと称し提案したが、計画の冒頭にページを設ける案が資料2である。これからの10年間も多くの変動が想定されるが、全体に通じる考え方を示すものと捉えていただきたい。分野別計画の一つ手前の考え方になる。追加すべき項目や内容についても意見をいただきたい。グラビアという表現も、もっと良い案があれば意見をいただきたい。

内容的には、今後の振り返り時に、途中でアップデートすることもできたら良いと考えている。柔軟さを示すために、基本的な考えを示すページとしたい。今回の提案は6テーマであるが、構成全体や文言について意見をいただきたい。

分野別計画は、総合計画の主となる部分だが、現在、関係各課と調整中の部分もあり、とりまとめ始めている状況である。

時間が限られているため効率的に進めたい。説明の途中でも委員からコメントがあれば発言願いたい。それでは、事務局より説明をお願いする。

(1) 前回意見の振り返り、調査研究の報告

【資料説明 略】

(2) グラビアページ素案について

【資料説明 略】

01 新しい地域社会の創り手をはぐくむ能勢分校

会 長) 「はじめに」は、地元の感覚として記載内容に問題はないか。01 に能勢分校の話が来ることは良いと考える。まずは、写真の選び方をどうするか。例えば能勢分校の e バイクの写真は公共交通のページよりこのページの方が分かりやすくて良い。「能勢分校を存続させる」といった宣言になるが、この先 10 年とした時に、地元としてどうか、確認したい。

委 員) 小・中学校の話も入れた方が良いのではないかな。

委 員) 義務教育学校に向けた動きもある。その辺も触れてはどうか。

02 小さな百姓を育てる

会 長) 新規就労者の話で、「小さな」と記載して良いか疑問である。地元の企業などへのヒアリングでは、環境に配慮している役割意識も持っていた印象であった。この辺に触れても良い。生産年齢人口の減少や休耕地の増加などの深刻さも問題であることも触れるべきである。

委 員) これを他の地域の方が見て、能勢に就労先を探してくれることは良いことである。しかし、元々地元で暮らす方の苦労や、新しく来られる方と地元の方とのつながり方を示すべきである。一面だけを捉えるのでは無く、地元で今、とても苦しい思いをしている人へのメッセージとなる言葉も載せてほしい。

会 長) 町外の人には、「ここに来てみたい」というきっかけになるように。また地元の方と、繋ぐ部分も示すべきである。

03 自分らしい生き方をみつける

会 長) 小学校就学前の子育てにスポットを当てた話題である。幼稚園では、個々の子供たちの自立を重んじていると聞き、その辺りの内容が示されている。構成としても将来の担い手（能勢分校）、就労者（農業）から子育ての流れは良いと考える。

04 人にやさしい町に

委 員) このテーマをグラビアページに取り上げていただき、非常にありがたい。福祉・災害・感染症対策は総合計画で取り上げるべきである。タイトルは、「健康で長生きできるまち」などの思いを入れてほしい。多くの方は文章まで読まないで、タイトルや見出しで伝えたいことを示してほしい。また、現案の写真は都会的すぎる印象である。公民館での体操など、能勢らしい写真が良いのではないかな。

会 長) 太字で重要なキーワードを示した方が良い。

委 員) 「いきいき百歳体操」やウォーキングなどの取り組みを紹介しても良いのではないかな。

会 長) これを読まれた方が、運動を始めようと思ってくれるかもしれない。

05 ゼロカーボンタウン

- 委員) 他のページも含め、非常に良くまとめられている。このページのタイトルは、「自分たちのエネルギーをみんなで考えよう！さらに地域にお金を還元することを考えよう」などの表現が良い。どのテーマも、現在、もがきながらも進行している事例で、あくまでもチャレンジ事例であると示すべき。町民に「一緒に考えよう」など、前向きになってもらえる言葉や、こうしたら、まちづくりが進むといったアクションを書くといい。新しいことに取り組むことも大事だが、地元の方々の協力があって始まると考えている。受け入れの課題もあるが一緒に考えていこうといったことを示したい。
- 会長) ソーラーパネルの写真は、乱開発の問題を連想させ誤解を招くのではないか。グラビアというより、「考え方集」とか「皆さんに呼びかけるもの」が良い。

06 いつまでも安心できる暮らしとまちづくりを支える公共交通

- 委員) 町民の方に当事者意識を持ってもらうことが重要である。全国で公共交通機関が撤退している中で、能勢町でも便数が減っている。そういった問題提起も必要ではないか。
- 会長) 公共交通の現状が、将来、危ういことを示すことも必要である。そこでe-バイクに取り組むといった流れも良い。もがきながらも次の10年続けることを隠さずに示すべきである。また、出来ていることがあることも、きちんと伝えるべきである。

その他

- 委員) 企業が活躍しているイメージがない。起業も含めて企業誘致の話がたくさんあるので、企業イメージを追加してほしい。大阪府は工場用地がない。行きつくのが能勢町や北部地域である。昨日は半導体2社を案内した。能勢町と共存したいと希望する企業もいる。役場が提供する土地があれば良いが、京都府亀岡市に誘致されることも多い。1社でも成功させたいと思っているがなかなか難しい。
- 会長) 土地開発の議論にも繋がる。来る側にも、「こうすると、能勢の環境にも適応する」といったことを伝えることが必要である。企業側が気持ち的に能勢に関わり続けようという雰囲気があれば良い。これまで能勢町では、(誤解を招く言い方になるが) あまり大規模開発の話は聞かなかった。用地の確保などの問題もあるので、書き方については事務局と相談したい。
- 委員) 町の問題も人の問題も、迎え入れる側が、どう迎え入れるのかのバランスを示さないと未来は見えてこない。
- 会長) 開発許可や用途変更でも課題はある。町の都市計画の担当部署とも議論したい。開発関係はどういった内容を総合計画に載せるのか。「ここを開発します」と書くものではない。開拓する部分、保全する部分のバランスをどう考えるかが重要である。地元の未来を見据えた方向性は示せないだろうか。
- 委員) 再生可能エネルギーでも同じ議論がある。大規模開発が果たして良いのか、大規模開発者に任せると、開発者にしかお金が落ちていない、植民地型とも言われている。他の地域では大規模開発に対して条例を策定しているところも多い。本来、地域と一緒に未来を創るパートナーが必要である。能勢町の再生可能エネルギー開発では、ゾーニング調査が始められている。
- 会長) 能勢町には地元根付いている企業がある。土地利用の話は事務局と相談しながらである

が、長期的な視点で今後どうしていくのかを町民にも問いかけることも必要である。

委員) この4月以降、企業からの問い合わせがかなり増えている。土地が安価と期待されているのは事実である。また、大阪府で用地が無くなっているのも事実である。大阪市内の企業で用地が無く、周辺で土地は買えないような状況と聞いている。また高槻市でも坪100万円程度で、大阪府からも外へ流れてしまっている。企業誘致のことが出ていないが、能勢町では、今後10年、このスタンスで行くのか。

町の若者は、町外に出て行こうとしている。その後、また帰って来ることができれば良い。その時、企業誘致をしていれば、受け入れもできるかもしれない。

委員) そこは重要だが、総合計画としてどうアプローチするのかが疑問である。具体的に示すには議論の時間がない。「今後こんなことを考えていく」という方針を示すのであれば、良いと考える。企業が能勢に来るのであれば、こういう総合計画があり、能勢で人を雇って下さい、こういう条件があります、といった大きな方針があれば、能勢の伝統を守り、企業と共存できると考える。

委員) 地元の人を雇うのは企業側も絶対条件である。地元企業でも人が集まらないと聞いている。

委員) 前回も話す機会があったが、開発とのバランスをとるというスタンスで、開発について触れないのはおかしい。

会長) これまでの意見を踏まえ、グラビアページを1ページ増やすことにする。地域にとって良い企業もあり、実は、町民がもっと働きに行きたい、という今の状況を情報提供することは重要である。現状はゴルフ場開発で開発規制を厳しくした時代に策定した土地利用計画である。働く場所が欲しいというのは皆の意見であり、ある種、中立的に実態を伝えるべきである。

本来は、都市計画では、どこに立地するかを具体的に決めてから伝えるべきだが、10年間で産業構造も変わる可能性があり、良い方向へ行くことも考えられ、そこに対応できることも考えておくべきである。能勢町独自の姿勢を見せることがあっても良い。

委員) 若い人が将来の働き先を期待できる文章にするべき。高齢者だけでなく、若い人に読んでもらうには、写真を多く取り入れていて良いと考える。

委員) 地元の人が身近に感じる写真を入れるべきである。言葉も上からでなく平易なことばで表現してほしい。

豊かな自然を体感すること、獣害対策、河川の清掃活動、里山の保全などを行政がどう後押ししてくかを、どこまで踏み込むかの問題もあるが書くべきである。

会長) 「一緒にやりましょう」的なスタンスを示せると良い。役場から投げるだけでなく、一緒にやるきっかけを作り、「つながる」というメッセージを伝えるべき。この10年で結果的に、行政主導ではなく、町民がつながりを多様につくってくれたのではないかな。それで良いと考える。

冒頭にこういうページのある総合計画は他の自治体では見たことがない。はじめに、地元の声であるということが伝わると良い。そんなコメントを入れていきたい。

修正については、分担を決めて、各文面を精査しくことで対応したい。

(3) 分野別計画－各施策について－

【資料説明 略】

- 会長) 各項目は時間をかけて見ていく必要があり、もう少し審議会の回数を増やしたい。
言葉遣いは、昨年審議した体系にも連動するが「ウェルビーイング」をタイトルに使うのか。専門用語であるが、読み飛ばされる可能性がある。概念はいれておきつつも、体系も合わせて表現を調整しても良い。
土地利用についての利用割合は、円グラフにするなど、もっとシンプルに書いても良い。
大阪府の都市計画の特色、開発が多発したバブル時代に決断した計画で、山間部を保全できたのは正解だった。守られている部分が大いにある一方で、必要なものを作りにくいといった課題もある。能勢の提案が他の自治体が参考にすべき北大阪の提案にもつながる。実情も知っていただきたく、都市計画部署の担当に相談して検討すべきである。今後のスケジュールについて事務局の考えを伺う。
- 事務局) 当初は、11～12月に修正版を出して年内に案として審議会に提案し、その後、パブリックコメントの募集(パブコメ)を行い、その修正を踏まえた審議を2、3回実施し、3月までに完成させる予定であった。
- 会長) 10年前、説明会を行ったが2人しか来なかった。どこかの段階で説明会をやることも良いのではないかと。パブコメのPRとして説明会を開く方向で考えたい。
- 委員) 修正できない意見があった場合、対応できるのか。ほぼ出来上がった段階でのパブコメ実施で良いのか。後戻りできるのか疑問である。本来、もう少し前に意見を聞いても良かった。
- 会長) 最後にパブコメを実施する事例が多いが、まだ遅れている状態であり、パブコメもたたきの状態を出して、3月完成ではなく年度越えてから計画を策定することは許さるのか。事務局で対応できるのか相談が必要だがパブコメの後の時間を長く確保する方が良い。
- 事務局) 目標を3月の策定としていたが、委員に了承いただければ、延ばしていただいても構わない。
- 委員) 住民の方を呼ぶ説明会では計画が出来上がってからの10年をどうするのかを説明した方が良い。シンポジウムのような形で思いを浸透させた方が良い。
計画内容の精査については、一人で全部を見るのは大変なため、担当を振り分けて実施する方が良い。また、一同に集まらず、メール審議や、グループで集まるなど工夫してやることが良い。
- 会長) 完成した内容をお知らせするシンポジウムは、ぜひ開催したい。また説明会も開催したい。
4月以降、担当の異動もある為、集まるのは3月までで4月以降の発行でも良いと考える。
精査については、どの委員がどの内容を担当するかを事務局で提案してほしい。
- 事務局) 次回の審議会開催時に、パブコメで出してもいいであろうという事務局案を作成する。また、その後は3月までアップデートする形で対応していきたい。

(4) その他

- 事務局) 次回は仮予定だが12月21日(火)の午前中の開催とする。本日欠席の委員に確認し後日連絡する。

・閉会

以上